

認知症ってなに？



動画QR

声から学ぼう！

動画「共創のまちづくり～認知症と共に生きる、私たちの声」

脳の病気やさまざまな原因によって脳の働きが低下し、日常生活や社会生活を送るうえで支障がでてくる状態（暮らしの障害）です。認知症になることは特別なことではなく、誰でも認知症になる可能性があります。

認知症かもしれないと思ったらどうしたら良いですか？

治療が可能な病気もあるので、専門的な判断が必要です。

また、高齢者は脱水や薬の影響で認知症のような症状があらわれることもあります。

「今までと違う」と感じたら、できるだけ早く**かかりつけ医（▶P11）**や**安心すこやかセンター（▶P9）**に相談してみることが大切です。

どんな症状がありますか？

認知症の症状や経過は一人ひとり違います。

もの忘れ以外の症状がみられることもあります。

【本人や家族が感じている症状】

- ・仕事や家事などの段取りが悪くなり、時間がかかるようになる。
- ・日にちや時間、場所が分かりにくくなる。（慣れた道で迷う。）
- ・数分前や数時間前の出来事を忘れる。（同じ話を何度も繰り返す。探し物が増えた。）
- ・自分や物との位置関係が分かりづらくなる。・意欲がなくなったり、いらだつことがある。



気になったら「自分でできる認知症の気づきチェックリスト（▶P19）」をやってみましょう。



若年性認知症について

65才未満で発症する認知症を「若年性認知症」といいます。働き盛りの世代での発症となり、仕事や経済的な問題、家族への影響などさまざまな悩みを抱えることがあります。早い段階での気づきと相談が大切です。

【相談先】

安心すこやかセンター（▶P9）

地域包括ケア推進課

☎ 054-643-3225

静岡県若年性認知症相談窓口 ☎ 054-252-9881

月曜日・水曜日・金曜日（週3回） 午前9時～午後4時 ※祝日、年末年始（12月29日～1月3日）を除く



若年性認知症
ハンドブック

認知症の原因となる病気にはどのようなものがありますか？

認知症の原因となる病気には、さまざまなものがあります。
代表的なものとして以下の4つがあります。

✓ アルツハイマー型認知症

覚えることが苦手（記憶障害）になることや、日にちや場所が分からなくなる（見当識障害）ことがあります。また、物の位置や距離を理解することが苦手（視空間認知障害）になることもあります。

✓ レビー小体型認知症

現実にはないものが見える（幻視）ことや、動作が遅くなる、すり足で歩き転びやすいなどのパーキンソン症状がみられます。また、大声での寝言や寝ぼけ（レム睡眠行動障害）が出現することがあります。

✓ 前頭側頭型認知症

もの忘れよりも、性格の変化や社会的な常識とは異なる行動が目立ちます。同じ行動パターンを繰り返したりすることもあります。難病指定を受けています。

✓ 血管性認知症

脳梗塞や脳出血などが原因で発症する認知症です。脳の部位によって、手足の麻痺や飲み込みの障害（嚥下障害）、会話が苦手（言語障害）になることがあります。また、記憶力や判断力が低下することがあります。

軽度認知障害（MCI）とは

軽度認知障害は、認知症と健常な状態の「中間のような状態」です。

もの忘れなどの認知機能低下の自覚があるものの、日常生活は問題なく送ることができている状態のことです。

MCIは認知症だけでなく、健常な状態にも移行しうる状態です。

早い段階で気づき、生活習慣の改善や治療を受けることで、認知機能の低下をゆるやかにしたり、状態が改善する可能性があります。

【MCIは健常な状態と認知症の中間の状態】

